



本会記事

■広報委員会だより

「小学生のための夏休み『自由研究』教室」 (日本大学理工学部) への出展

令和元年7月21日(土)に日本大学理工学部において開催された「小学生のための夏休み『自由研究』教室」に出展しました。第1回目の開催時より当学会が演示実験協力を行う本イベントは本年度で12回目を数え、開始当時参加していた小学生は、早ければすでに大学を卒業している年齢となります。

会場となった日本大学理工学部駿河台校舎1号館6階のホールには、約500名の親子連れが来場して学科や学生サークル、附属校などが出展したブースで自由研究のヒントとなる工作や実験に取り組み、また本学会の担当する「プラズマであそぼう」のコーナー(図1: コーナー全景)で演示実験を楽しんでいました。

このコーナーでは、広報委員が持ち寄ったプラズマの性質や関連技術を紹介する演示実験装置が並べられ、また、広報委員会が作成したプラズマに関するクイズやパネルを展示しました(図2)。恒例となったこのコーナーを目当てに参加する親子連れも多いとのことで、イベントを主催した日本大学理工学部の広報担当者からは、プラズマの展示に関するコメントがSNS上でも多数見られるとの情報をいただきました。

広報委員会で作成したクイズは、楽しみながらプラズマについて知ってもらえるように同じく当委員会で制作した学会のパンフレットと対応させ、正解するとスタンプがもらえる形式になっており、例年、子どもたちの人気を集めています。演示実験装置としては、核融合科学研究所からは超伝導磁気浮上列車の模型や気圧と放電の関係を体験する注射器火花放電装置をご提供いただきました。量子科学技術研究開発機構からは、ITERに関するポスターなどに加えジャイロトロン窓に使用されるダイヤモンドをご提供いただき、氷を用いた演示実験によりダイヤモンドの物性について説明しました。日本大学・浅井研究室からは、テスラコイルを変調させ放電音により演奏する装置や白熱電球でつくったプラズマボール、グライディングアーク、大気圧プラズマ装置など、同研究室で製作された演示実験装置が多数出展されました(図3)。

イベント当日は、本学会広報委員会から、長谷川晃、浅井朋彦、磯部兼嗣、下妻隆、畑山明聖、吉沼幹朗の6名が参加しました。事務局からも杉山さんが参加され、また、日本大学・浅井研究室からは大学院生の佐原さん、佐々木さん、齊藤さんにもご協力をいただきました。

広報委員会では、冬にも名古屋大学における同様のイベントへの出展を行っております。本欄でも毎回紹介しておりますので、詳細につきましては過去の記事もご参照ください。これらの活動は、本学会の会員が所属する機関等が主催する既存の科学イベントに相乗りし会員が持ち寄る形で展示を行うことにより、低コストで効率の

良い広報活動を模索するものとして開始されました。会場では子どもたちの口から「プラズマ」などの言葉もよく聞かれるようになり、本学会が関連する分野に関する広報活動として、一定の効果が得られています。広報委員会が作成した資料や展示物について、ご所属の機関のオープンキャンパスなどのイベントでの公開を希望される方は、広報担当理事が事務局までお問い合わせください。

また委員会では、学会公式Facebook^[1]を立ち上げ、SNSを利用した新たな広報活動の展開も進めています。広報に関するアイデアや、広報すべき情報等、皆様のご意見をぜひ委員会までお寄せください。

(広報委員会)

[1] プラズマ・核融合学会公式Facebookページ,
<https://www.facebook.com/PlasmaScienceandNuclearFusion/>



図1 「プラズマであそぼう」のコーナー全景。



図2 クイズに挑戦する小学生。



図3 プラズマに関する演示実験。